

令和5年度 日本応用地質学会 現地見学会（全国大会）

日時:令和5年10月7日(土)

場所:秋田県男鹿半島エリア

案内者:藤本幸雄氏、石井英二氏、正木光一幹事

参加人数:32名(+案内者3名、担当幹事2名)

はじめに

令和5年度研究発表会(全国大会)が秋田市で開催されるということで、現地見学会も秋田県内から選定することに。秋田市内から日帰りで戻れる場所といった条件がある中で、「男鹿半島の地史ー白亜紀から第四紀海水準変動までー」というテーマで、寒風山～安田海岸～入道崎～鶴ノ崎海岸と男鹿半島ジオサイトを巡るコースとしました。案内者に藤本幸雄氏(秋田地学教育学会)、石井英二氏を迎え、バスの車内および見学地にて丁寧な説明をしていただきました。

申し込みを締め切るほどの参加者があり、バスも定員に近い状態でした。直前の豪雨により、見学ルートの変更が必要になることもありましたが、無事見学会を実施することができました。

1. 車内にて

定刻通り8:30AMに秋田駅東口を出発しました。出発時間になって降り始めた雨が、途中で土砂降りとなるなど、見学地での天気が心配になる序盤でした。

車内では、今年7月の豪雨による秋田市内の被災状況や、現在も稼働する油田の説明、高清水丘陵に施工された風力発電などについて車窓からの風景を絡めての説明がありました。



P1 車窓から見える風力発電。外は土砂降り。

2. 寒風山展望台

寒風山の展望台へ向かう途中では、芝生に覆われた山腹斜面にぼつねんとたたずむ地震塚を眺めながら登っていきました(東北支部橋本顧問から資料提供された)。心配された雨でしたが、山頂の展望台に到着した時には止んでおり、南側には男鹿半島から秋田市に続く海岸線および風力発電施設を、北側には能代港方面の海岸線を望むことができました。雨はやんだもののさすがに雲が多く鳥海山や白神山地までは見えませんでしたが、能代砂丘、寒風山火山などの説明を受けました。



P2 能代方面を眺めながら説明を受ける参加者



P3 寒風山の第1火口を望む参加者

展望台での見学後、バスにて第一火口近くの板場の台へ移動し妻恋峠火口から流れ出た「溶岩じわ」を観察しました。また、寒風山を眺められるこの場所で集合写真を撮影しました。



P4 集合写真。



P5 板場の台、写真の右側緩斜面部には「溶岩じわ」を確認することができます。

3. 安田海岸

見学地 2 箇所目は、寒風山北側に位置し、海食崖が発達する安田海岸でした。更新世の堆積物の堆積構造、広域テフラ、貝化石群集の観察が予定されていましたが、前日からの強風により海が荒れて、海岸近くまで波が押し寄せている状態だったため、見学を断念せざるを得ませんでした。



P6 安田海岸の様子。波が海食崖直下まで迫っている。海岸線を歩いて観察する予定でした。

4. 入道崎

入道崎に到着するころには、風は相変わらず強いものの雲が晴れ、太陽が出てきました。入道崎には、予定より早い時間に到着したため、入道崎駐車場からすぐのところにある「鹿落とし」を見学しました。男鹿半島に多く生息していた鹿を追い落としたことから名前が付いた場所ですが、赤石層の溶結凝灰岩が断崖を形成しています。花崗岩礫が混在する礫岩状に見える岩盤で、近くに寄って観察できる場所もありました。また、郷土料理である「石焼料理」に使用される現代の食にも欠かせない大切な岩石の一つのことです。



P7 鹿落としでの説明、観察。写真奥が溶結凝灰岩の崖となっている。

5. 昼食

昼食は、「秋田米の最上位品種」として開発された品種「サキホコレ」を使ったお弁当でした。もっちりとした触感が素晴らしく、冷えた状態でも美味しいお米でした。風が強くなければ、海岸において太陽の下で食べることもできたかもしれません。



P8 お弁当

6. 鬼の俵ころがし

海岸沿いに露出する花崗岩を貫く玄武岩の露頭を観察しました。ピンク色をしている花崗岩を茶色の玄武岩が一本の道のように貫いている様子が、鬼が俵を転がした跡に見えることからそう呼ばれているらしいです。



P9 鬼の俵ころがし(矢印付近が玄武岩)



P10 海岸の露岩状況を観察する様子。

7. 八望台

入道崎から次の見学地である鵜ノ崎までは、海岸沿いの県道59号で南下する計画でしたが、7月豪雨の影響が残り片側交互通行箇所があるとのこと。大型バスの通行が困難であることから、急遽ルートを変更し、東側から鵜ノ崎に行くことになりました。

そのため、当初の計画にはなかった八望台に立ち寄りました。八望台東西には、爆発的な噴火によるマールと考えられている円形の湖があり、東側は一ノ目潟、西側が二ノ目潟と呼ばれています。さらに、南東側を望めば、山の裾野に発達する海成の段丘面の広がりを確認できます。



P11 八望台から海成段丘面を望む。

8. 鵜ノ崎

鵜ノ崎では、遠浅の海岸で鬼の洗濯岩と呼ばれる褶曲した地層や、小豆岩と呼ばれる球体の岩石を観察する予定でした。しかし、潮が満ちている時間帯だったため、期待された地層の背斜構造を見ることができませんでした。

小豆岩については、別途陸側に展示されているものがあり、そちらで観察をすることができました。近年、生成速度やその成因について新たな知見があった球体コンクリーションということもあって、参加者は皆、興味津々で観察をしていました。本来なら、転石から魚の化石探すことも可能ですが、波打ち際のみしかアクセスできない状況では、発見するのは困難でした。



P12 鵜ノ崎海岸。潮が満ちており、小豆岩が点々と海水面に頭を出すのみでした(残念)。

やや後ろ髪を引かれる気持ちではありましたが、これで見学会の行程はすべて終了しました。

秋田駅へ向かう帰路の車中では、藤本氏から車窓から見える門前層の話や、東北地方では珍しい山蛭の生息地の話などを伺いました。



P13 展示されている小豆岩。

9. おわりに

天気が心配された見学会でしたが、見学地につく頃には雨が上がり、午後にはすっかり良い天気となりました。一部見学地が露頭に近づけないなどのハプニングもありましたが、終始よどみなく解説・説明してくださった藤本氏のおかげで、非常に充実した見学会になったと思います。見学地の選定や当日の説明など便宜を図って下さった藤本氏および石井氏にあらためて感謝申し上げます。また、見学会に参加していただいた皆様も大変お疲れさまでした。

以上

(担当幹事:正木、千葉、初貝)